

地域ネットワークニュース

電話0299(93)0294

e-mail mail@kamisushakyo.com

http://www.kamisushakyo.com

第124回勉強会

「日常生活自立支援事業の取組とその活用について」

(地域福祉権利擁護事業)

神栖市社会福祉協議会 名雪義一

日常生活自立支援事業の基幹的社協を受けてから7年目を迎えようとしています。これまでに、この事業を通してそれぞれの生活環境にある多種多様な生活課題が見えてきました。

「知的障害を抱えながらも地域での生活を実現したい」「物忘れが激しくなり通帳や印鑑をなくしてしまう」「不法な訪問販売に何度も騙されてしまう」「身寄りがなく、入院費や施設利用料の支払いができない」など、地域での生活には関係機関との連携と協働がなくては解決できない課題が多く潜んでいます。

そこで、これらの具体的なケースを基に実際にどう対応してきたのか、利用に至るまでの経緯や活動内容を報告します。そして、ケースを通して見えてきたチーム支援の重要性についてみなさんと共に考え、共通理解を深めたいと思います。

「日常生活自立支援事業」の基本理解から一步踏み込んだ内容となっていますので、地域生活支援に関わる関係者にとって今後の支援の参考となる勉強会です。現場での対応に苦慮している、利用者との関わりに不安がある方は必見です。ぜひお誘い合わせの上ご参加下さい。

平成20年2月12日(火)午後7時より 神栖市保健・福祉会館 2階 研修室

第123回
勉強会報告
参加者160名

「発達障害を持つ子のいいところ応援計画」リターンズ ～通常学級でできる！"サツと""ふわっと"サポート～

講師：阿部 利彦先生（所沢市教育委員会 学校教育課）

昨年の講演会のメインテーマであった子どもの「いいところ探し」の大切さを振り返りながら、「特別支援」が特別な人だけへの特別な支援にならないように『子どもの見方を変えて子どもの味方になる』ことをユーモアを交えて伝えて下さいました。

忘れてしまいがちですが、子どもにもプライドがあります。頭ごなしに行動や言動を否定するのではなく、間違いや危険を伴う行動に対して規制をしながらも『気持ちは受け止める』ことばかけが大切で、そのためにまずは関わる大人がゆとりを持って対応することが必要であると感じました。

子どもへの配慮、家族への配慮、先生や支援者への配慮、それぞれがそれぞれの気持ちに寄り添えるように『ありがとう』から始める特別支援教育を、と締めくくられ、特別なことをする前にできることから始めよう、そう思える充実した講演会でした。阿部先生、そして参加者の皆さん『ありがとう』



講演会の感想（参加者アンケートより）

- ・発達障害の子の特性と関わり方について具体的にお話があり、参考になりました。困った行動が本人にとって困った行動なのか、親にとって困った行動なのか混同していることが多かったことに気づきました。（家族）
- ・発達障害を学ぶこと以外に様々な方との関わり方のヒントが多く詰まっていた。人間性を磨くいい機会だった。（医療関係者）
- ・発達障害者の方に対しての支援というと専門的な支援を想像してしまうが、実は専門的な支援だけでなくちょっとした意識の変化で取り組めることがあることに気づかされました。（福祉関係者）
- ・一人の担任、一人の母として障害のあるお子さんを持つお母さんの困り感にそっていききたい。子どもたちに対するふわっと言葉をたくさん発していきたい。（小学校教諭）